

# 荒廃水田がキャベツ畑に再生！

## ポイント

- ◎青果卸業者が水田での周年キャベツ栽培に挑戦しており、今後、水稻裏作での栽培も目指している。
- ◎耕作放棄地がキャベツほ場となり、鳥獣被害の抑制や地元雇用の創出、地域活性化につながった。



## 現状と課題

- ◆Mトラスト(株) (宮崎市)  
宮崎県や県外産地(群馬県、長野県)で生産された加工・業務用キャベツを外食産業や実需者に供給している青果卸業者で、通年安定供給を行うため、新たに宮崎県内の栽培適地を探していた。
- ◆須美江・熊野江地区(延岡市)  
近くに海水浴場があり、リゾート地として人気な一方、農地は、ほとんどが水田で、高齢化・担い手不足・鳥獣被害拡大が進んでおり、耕作放棄地の増加が懸念されていた。
- ◆水田におけるキャベツ栽培
  - ・土壌が粘土質で排水が悪く湿害が発生しやすい
  - ・加工・業務用で土壌適性のある品種選定
  - ・裏作時、稲の刈株やキャベツの収穫残さが作業の障害となる
- ◆雇用者の確保

## 対応

- 平成30年9月から地元と話し合いを重ねながら、40aで栽培実証をスタートし、毎年面積拡大
- 令和2年3月にはほ場拠点として倉庫や事務所を竣工
- 加工・業務用適正、土壌適性、生育状況等を考慮した品種を選定し、栽培方法を研究
- 水田(暗きょ整備なし)
  - ・畑栽培時より5~10cm高く畝立て
  - ・既存の排水口に加えて、追加整備
  - ・モアによる粉碎や発酵促進の土壌改良材投入による刈株等の処理
- 冬季(異業種閑散期)における短期雇用
- 地区内関係者等の協力のもと、防護柵や防鳥網を設置

## 結果

- 農地が集積され、合計12haの水田がキャベツほ場に再生
- 地元雇用(正社員3名、パート8名)の創出
- 刈株や収穫残さをすき込むことで、稲への施肥量が減少
- 法人：農作業人員確保  
地元：冬季の仕事創出
- 耕作放棄地が減少し、鳥獣被害拡大の抑制

## 今後の展望

- 農地中間管理事業やスタンバイ農地事業、農地耕作改善事業等を活用した新たな農地の集積・集約、大区画化・防護柵設置等の基盤整備に向けた検討を進めている。
- 水稻裏作等を利用した作付面積拡大に挑戦中で、より効率的で効果的な栽培方法を確立したい。
- 地産地消を拡大し、さらなる地域活性化につなげたい。